

「御用布繪形之見本」と「御絵図」における緋の分類と比較

柳 悦 州

琉球王朝時代に育まれた沖縄の織物は、独特の美しさと高度の技術を持ち現代に受け継がれている。沖縄の織物はどのような状況の中で発生し、現在のよ
うな形まで展開したのであろうか。沖縄の織物の発生と展開を知ることは、沖
縄の文化を認識することと共に、過去から現在までの状況から織物の将来進む
べき道を明らかにしてくれる意義がある。

沖縄の織物についての研究で代表的なものは「沖縄の織物の研究」（田中俊
雄・玲子、1976）である。特に技術的側面から学術的手法で沖縄織物について
研究を行った最近の研究では、筆者も研究に加わった「琉球王朝時代における
御絵図 緋基本単位による分析」（祝嶺ら、1992）が主なものである。同研究
により、御絵図についていくつかの事実や検討課題が明らかとなった。

筆者は同研究と御用布繪形之見本を基に、独自の視点から緋模様の分類を行
い沖縄織物の緋模様について比較検討を試みた。

1. 研究目的と方法

1-1 研究目的

工芸織物に関する研究は少なく、その研究方法も未だ確立していない。吉本
忍はインドネシアを中心とした織物の機構造について分類学的方法による研
究（1991、2）を行っているが、沖縄の織物にまで踏み込んだものではない。
沖縄の織物について実際の織物資料に基づいた比較検討を行い、実証的な研究
方法を確立する必要がある。

本稿では緋の模様特に着目し、緋柄の分類方法を提案した。更に、その分
類に基づき実資料について比較検討を試みたものである。

1-2 資料

祝嶺らの研究（1992）では、小片ながら小柄連続模様として完結している資

料について喜舎場家文書「御用布繪形之見本」に見られる絵形との関係を示唆した。そこで、本稿では喜舎場家文書「御用布繪形之見本」を主たる研究対象とした。

資料は琉球大学図書館蔵のマイクロフィルムから紙焼きされたものである。資料は表紙に明治26年と記され、全体で19ページあり、絣織物の柄見本が主に1ページに6柄記されている。本資料は石垣島の明治26年当時の織物状況を明確に表すものとして貴重である。

また比較研究の対照資料として、筆者も研究の一端を担った「琉球王朝時代における御絵図 絣基本単位による分析」(祝嶺ら、1992)の中で御絵図より抽出された120点の絣基本単位を選んだ。

1-3 研究方法

研究方法を次に示す。

1. 絣柄の分類方法を検討する。
2. 資料より絣基本単位を抽出する。
3. 資料の絣基本単位を分類する。
4. 資料の考察を行う。
5. 対照資料の絣基本単位の分類を行う。
6. 資料と対照資料の比較検討を行う。

2. 結果と考察

2-1 原単位及び展開単位と展開

沖縄の絣織物は、様々な絣を組み合わせる模様が出来上がっている。模様を構成している各々の絣を模様全体に対して「絣基本単位」とした(祝嶺ら、1992)。この絣基本単位は、一つの絣あるいは同じ絣の繰返し、または異なる絣との組み合わせ等で構成されている。

本稿では、一つの基本となる絣基本単位を基に次の絣基本単位が作られて行くことを「展開」と定義する。展開の基本となる絣基本単位を「原単位」、原単位を基に展開によって作られる絣基本単位のことを「展開単位」と言うことにする。展開にはいくつかの決まったパターンがある。そこで、展開方法につ

いて以下のようにまとめた。

1. 一原単位の縦方向あるいは横方向への展開
2. 一原単位の斜め方向への展開
3. 左右対称に展開
4. 他の拵基本単位との組み合わせ
5. その他（大きさの変化、連続模様化等）

図1に原単位とその展開単位（斜め方向への展開）による拵基本単位の一例をあげる。図2-2の拵基本単位は図2-1の原単位の展開によるものであるが、図2-2は一つの独立した拵柄として更に展開されていくので、このような拵基本単位は原単位と分類することにした。



図1 原単位と展開単位



図2 原単位の例

2-2 拵基本単位の抽出と分類

「御用布繪形之見本」から78種の織物見本を採取した。更に、その織物見本より拵基本単位を35種類抽出し、本研究の資料とした。

資料より原単位を選び出し、原単位と展開単位との関係を考慮しながら拵基本単位を分類した。分類の結果を図3-1に経拵、図3-2に緯拵、図3-3に手結い拵、図3-4に経緯拵と分けて示した。原単位は四角で囲んで左側に示し、原単位から右方向へ展開して行くように示した。各々の拵基本単位の下部の数字は図での通し番号、カッコ内の数字は「御用布繪形之見本」資料に表われる回数を出現数として表示した。

35種類の拵基本単位のうち経拵は5種類、緯拵は6種類、手結い拵は7種類、経緯拵に分類されるものは17種類であった。展開単位の数は、3-28の原単位から展開したものが7種類と多いが、その出現数はどれも1である。3-28から展開したものの以外の拵基本単位については原単位から2～3種類の展開に留まるものが多い。

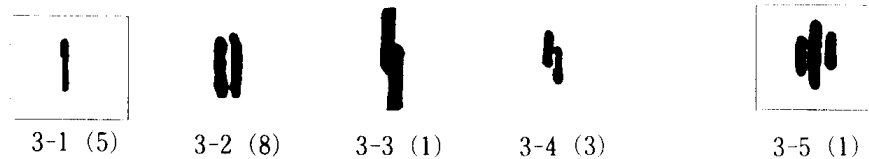


図3-1 資料経絣基本単位

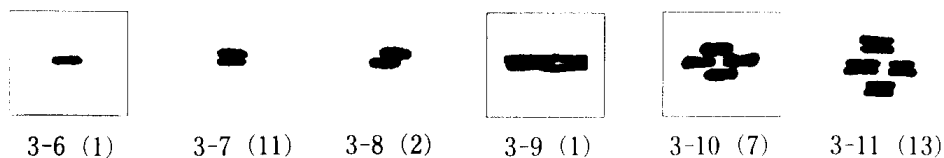


図3-2 資料緯絣基本単位

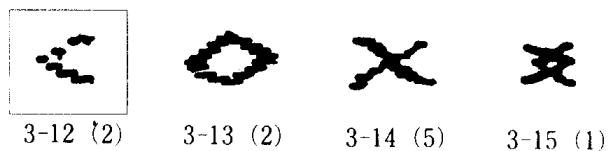


図3-3 資料手結い絣基本単位

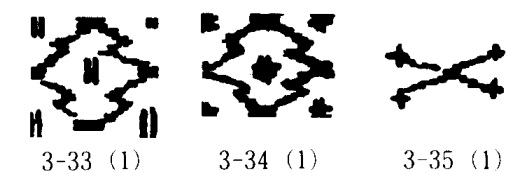
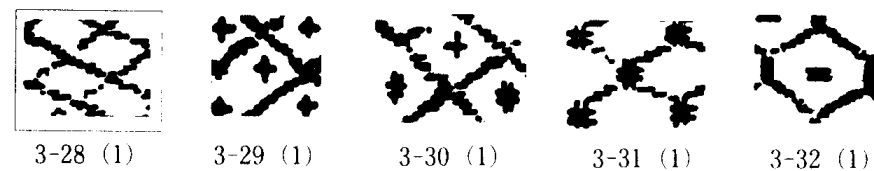
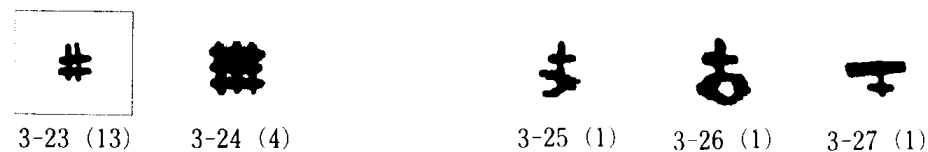
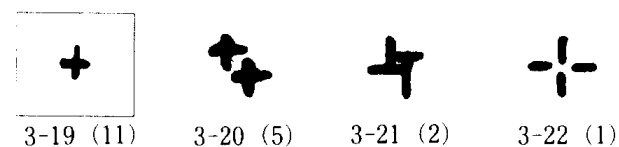


図3-4 資料経緯絣基本単位

出現数が10以上の絣基本単位を図4に示す。図4の絣基本単位の出現数合計は70であり、7種類の絣基本単位で全出現数134の約半数を占めている。

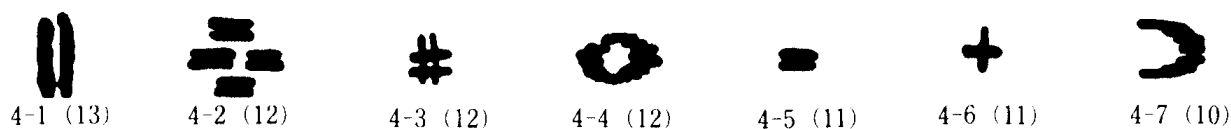
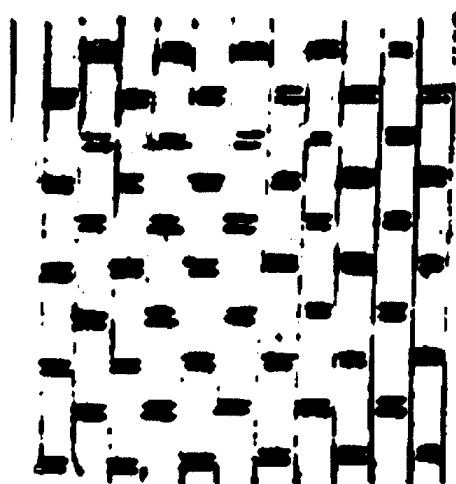
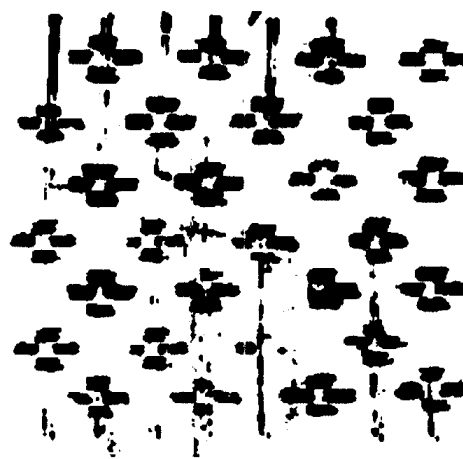


図4 出現数が多い絣基本単位



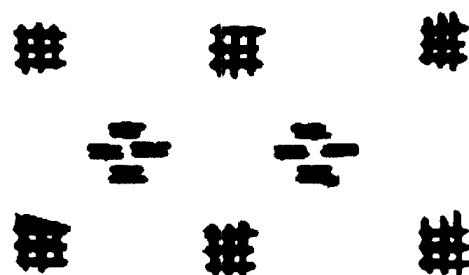
5-1 (6)



5-2 (4)



5-3 (4)



5-4 (4)

図5 同じ基本単位を使用した資料（カッコ内の数字は出現数）

資料の中には、絣の大きさなどは異なるものの、同じ絣基本単位を使用したものがある。図5に同じ絣基本単位を使用した資料のうち、多く表われるものを示した。図5に示された資料はどれも非常に単純な柄であることは実に興味深い。

3. 「御用布繪形之見本」と「御絵図」の比較

3-1 対照資料の分類

資料である「御用布繪形之見本」と対照資料である「御絵図」を比較検討するために、対照資料の緋基本単位より原単位を抽出し展開を考慮しながら分類整理した。図6は対照資料の経緋基本単位、図7は緯緋基本単位、図8は手結い緋基本単位、図9は経緯緋基本単位を示す（本稿最後にまとめた。カッコ内の数字は出現数である）。図3と同様に原単位は四角で囲んで示し、原単位からの展開単位を右方向にまとめた。

3-2 「御用布繪形之見本」と「御絵図」の比較

資料と対照資料について、緋基本単位の出現数の大きいものを比較すると、重複する基本単位は図4-6だけであることが解る。資料に多く出現する図4-2、4-5の基本単位は資料だけに存在し対照資料中にはない。図4の残りの基本単位（図4-1、4-3、4-4、4-7）も対照資料中に多く出現しているわけではない。このことから、資料と対照資料では重複して使われる緋基本単位が少ないことが解る。

図10に資料と対照資料の緋基本単位について、原単位と展開単位の数を緋技法別に示した。資料及び対照資料の原単位の数はほぼ同じであるが、展開単位については対照資料の方が多。資料である「御用布繪形之見本」が原寸大

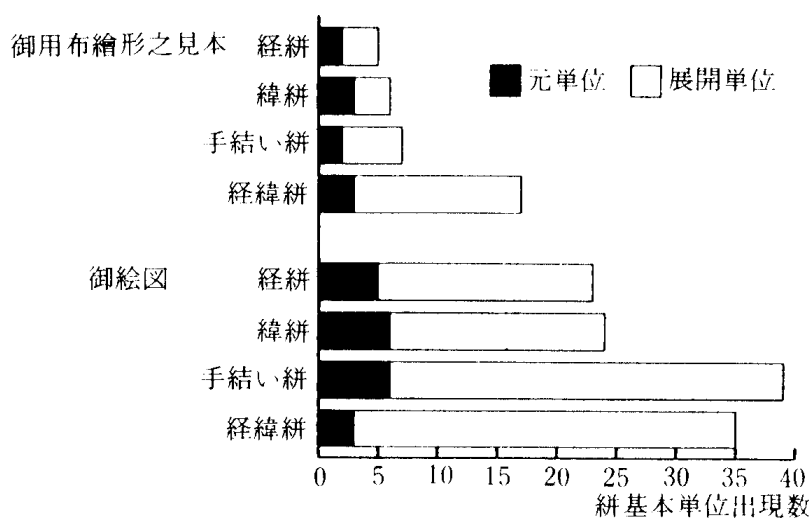


図10 原単位と展開単位出現数の緋技法による比較

に布を表現しているとすれば、一基本単位の大きさは縦横とも約1cm四方と非常に小さい。したがって原単位を大きく複雑な模様を展開させていくことは物理的に難しいと考えられる。

出現数について比較すると、資料では原単位の出現数合計は52、展開単位の出現数合計は82であった。対照資料では原単位出現数合計は194、展開単位出現数合計は474であった。即ち原単位出現数：展開単位出現数は資料で1：1.6、対照資料では1：2.4である。更に、対照資料の絣基本単位と出現数について注意すると、図6-16、7-12、8-12、9-25等のように原単位から展開を加えた一連の展開単位のなかで特別に出現数が多いものがあることに気付く。展開を繰り返して行くなかで、特定の基本単位が多く使われるようになることは興味深い。資料の展開単位は原単位に対して一回の展開であることが多く、対照資料のような傾向は見られない。

以上より、「御用布繪形之見本」に表われる模様は絣の構成数が少なく単純で細かい模様のものである。「御絵図」では少数の簡潔で洗練された原単位を基本に自由に展開していることが解る。その結果、対照資料の絣基本単位は力強く明解で変化に富んでおり、沖縄の絣織物の特徴をよく表している。

4. 検討課題

4-1 資料について

本稿では琉球大学図書館所蔵のマイクロフィルムを資料として利用したが、マイクロフィルムの劣化が進み細部が不鮮明であった。また、平成4年1月に沖縄県立博物館で「尚家継承琉球王朝文化遺産展」が行われ、同家所蔵の御絵図帳が7冊展示された。展示されていた御絵図の一部には数点の小柄のものがあり、本稿資料とほぼ類似するものを見ることが出来た。資料の収集を更に行い、より研究を深めていきたい。

「御絵図」や「御用布繪形」に記されたこのような織物見本によって織られた実際の織物を現在まで見たことがない。図5に示した資料からは本土の絣織物との関係も推測される。絣模様、材料、制作年代等の面から本土の織物との相互の関係について検討を行う必要もある。

4-2 絣基本単位の分類について

本稿は先ず原単位と展開単位を定義し、それを基に資料について検討した。次に資料と対照資料について比較検討を試みたものである。絣基本単位を分類整理することによって資料の比較検討を行うことが出来た。原単位と展開方法について更に検討を行い、沖縄と本土或るいは近隣諸国との比較検討をすることによって、沖縄の絣織物の特徴を明らかにして行くことが出来得ると考える。

本研究の一部は平成3、4年度沖縄県立芸術大学振興財団の助成によって行ったものである。

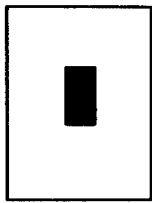
文 献

田中俊雄・玲子（1976）：沖縄織物の研究、紫紅社。

祝嶺恭子・ルバース吟子・与那嶺一子・崎浜秀昌・柳悦州・東恩納京子（1992）：琉球王朝時代における「御絵図」 絣基本単位による分析、沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要、第5号、p35-50。

吉本忍（1987）：国立民族学博物館研究報告、12、(2)、p315-448。

吉本忍（1990）：国立民族学博物館研究報告、15、(1)、p1-114。



6-1 (3)



6-2 (5)



6-3 (2)



6-4 (2)



6-5 (36)



6-6 (2)



6-7 (1)



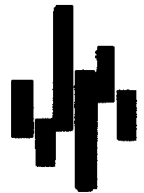
6-8 (1)



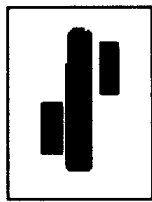
6-9 (3)



6-10 (1)



6-11 (3)



6-12 (2)



6-13 (6)



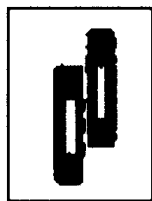
6-14 (1)



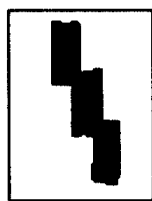
6-15 (1)



6-16 (35)



6-17 (15)



6-18 (5)



6-19 (13)



6-20 (1)

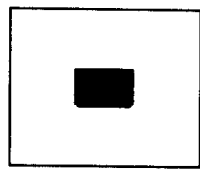


6-21 (10)



6-22 (1)

図6 对照資料経綫基本単位



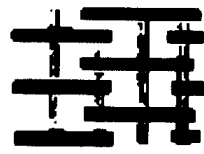
7-1 (6)



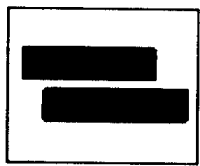
7-2 (2)



7-3 (1)



7-4 (1)



7-5 (34)



7-6 (2)



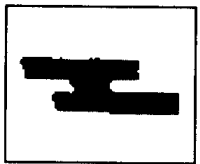
7-7 (1)



7-8 (3)



7-9 (3)



7-10 (6)



7-11 (10)



7-12 (20)



7-13 (9)



7-14 (3)



7-15 (1)



7-16 (6)



7-17 (1)



7-18 (5)



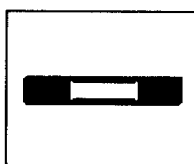
7-19 (4)



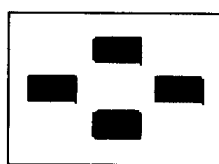
7-20 (4)



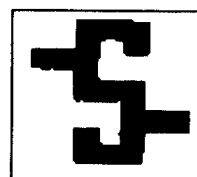
7-21 (2)



7-22 (3)



7-23 (1)



7-24 (5)

図7 対照資料緯綫基本単位

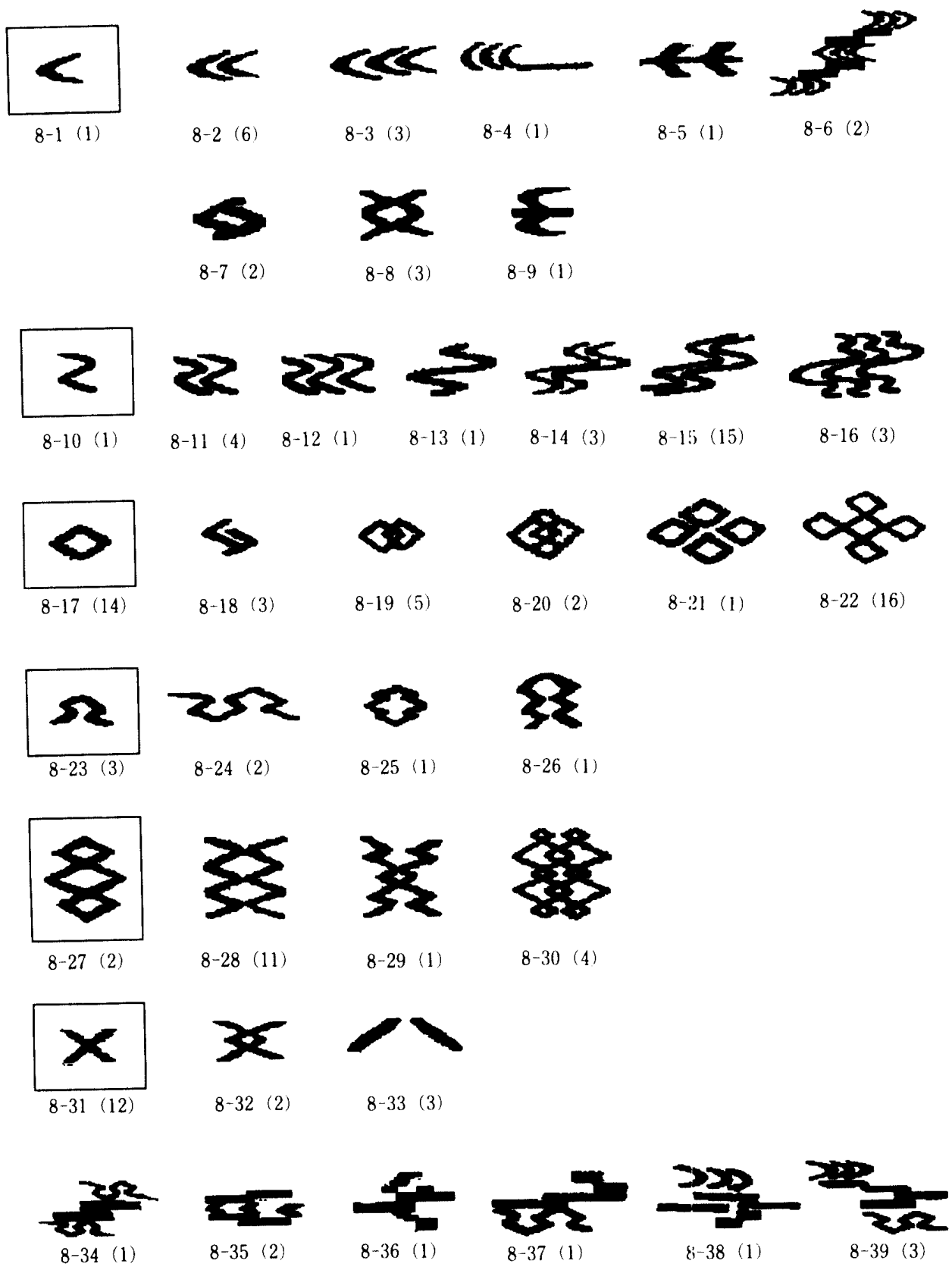


図8 对照資料手結い・拵基本単位

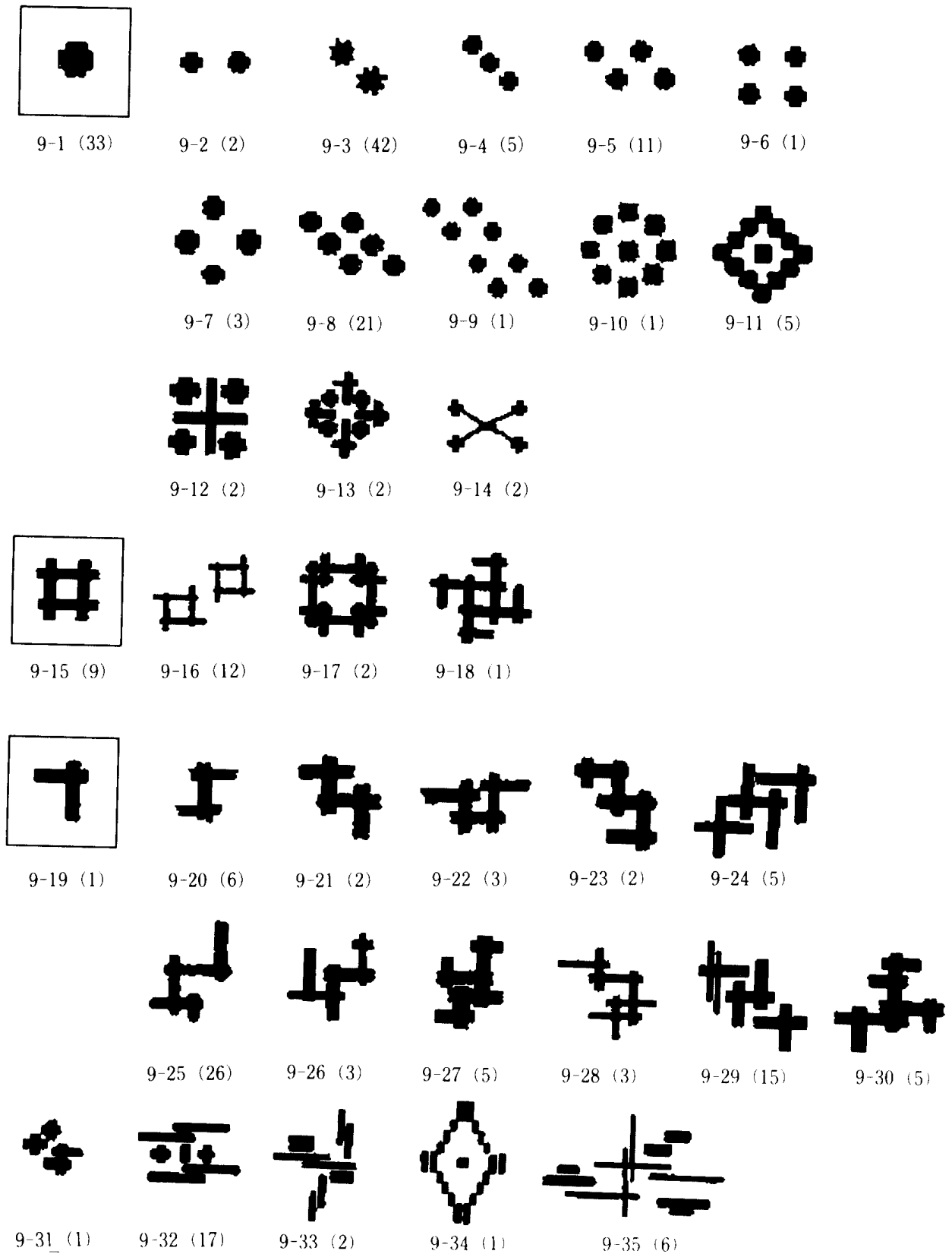


图9 对照资料経緯緋基本单位